

砂防だより



年頭の御挨拶	2
2025年しすおかの砂防10大ニュース	
令和7年度 補正予算成立	3
全国治水砂防促進大会及び支部要望活動	4
市町長等砂防関係事業県外視察	5
令和7年の土砂災害の発生状況	6
土砂災害防止施設の施設効果	7
浜松市内で日本地すべり学会中部支部が 現地見学会・討論会を開催	8
市町等砂防担当職員現場研修 わがまち(富士市)	9
歴史探訪 大沢崩れ	
インフォメーション	10
お知らせ	12

速報 令和7年度 補正予算成立

特集 全国治水砂防促進大会
及び支部要望活動

市町長等砂防関係事業県外視察

総括 令和7年の 土砂災害の発生状況
土砂災害防止施設の施設効果

年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 須藤 秀忠

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員をはじめ関係者の皆様におかれましては、日頃から当支部の活動に対し、多大なる御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、全国では、8月に相次いで発生した線状降水帯による集中豪雨や台風第12号等により、九州地方や北陸地方を中心に約540件(10月末時点)の土砂災害が発生し、死者2名、住宅全壊4戸等の被害がありました。本県においても、甚大な竜巻被害が発生した台風第15号を中心に28件の土砂災害が発生し、住宅半壊3戸、一部損壊5戸の被害がありましたが、砂防堰堤や擁壁等の防止施設の整備により土砂をくい止め、被害を軽減した効果事例が令和6年の18件に続いて昨年も7件ありました。土砂災害防止施設により人的被害を未然に防いだ結果、2年連続で「土砂災害による死者ゼロ」を達成することができ、ハード対策の効果と重要性を再認識したところです。

ハード対策の整備につきましては、新たに策定された「第1次国土強靱化実施中期計画」に基づき、国が富士山周辺や安倍川上流、狩野川上流で進めている直轄砂防事業や、日本の大動脈を守る由比地区の直轄地すべり対策事業を一層推進いただくとともに、県が進めている砂防や地すべり、急傾斜地の対策事業による県土の強靱化について、さらなる加速化をお願い申し上げます。

土砂災害の防止には、国、県によるハード対策とともに、地域住民の生命を預かる我々市町長は、昨年から本格的に現地の調査が始まっている9,047箇所の新たな土砂災害警戒区域の候補箇所について、県と連携して早期指定を促進していくとともに、土砂災害ハザードマップの作成・配布や住民への避難情報の伝達、より実効性の高い防災訓練等のソフト対策に全力を挙げて取り組んでいく必要があります。

引き続き、国や県と連携し、地域の安全・安心を確保できるよう、砂防関係事業の普及・発展に努めてまいります。会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、平穏な年となりますよう祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。

2025年 しずおかの砂防 10 大ニュース

昨年も土砂災害で砂防堰堤等が効果を発揮し、2年連続で「土砂災害による死者ゼロ」を達成

令和7年は県内で28件の土砂災害が発生し、住宅半壊3戸、一部損壊5戸の被害が生じましたが、砂防堰堤や擁壁等の整備により崩壊した土砂をくい止め、被害を軽減した効果事例が7件あり、2年連続で人的被害を未然に防ぎ「土砂災害による死者ゼロ」を達成しました。



令和7年の土砂災害は直近10年で2番目に少ない28件

令和7年9月の台風第15号で20件の土砂災害が発生しましたが、例年よりも豪雨が少なく、年間の発生件数は28件にとどまり、直近10年間では、平成28年の18件に次いで2番目に少ない件数となりました。



土砂災害警戒区域等の2巡目指定に向けた基礎調査本格着手

高精度な地形情報を活用して新たに抽出し、令和6年3月に公表した9,047箇所の候補箇所について、令和7年度から現地の基礎調査に本格着手しました。今後も市町と連携し、2巡目の区域指定を推進します。



須藤支部長(富士宮市長)が全国治水砂防協会功労者表彰を受賞!

5月29日(木)に、当支部の須藤支部長(富士宮市長)が、全国治水砂防協会功労者表彰を受賞しました。須藤支部長は、令和3年から当支部の支部長を務められ、永年にわたる砂防事業の促進と砂防協会の発展に寄与した功績が認められ、今回の受賞となりました。



全国治水砂防促進大会に20市町が参加

11月13日(木)に、全国治水砂防促進大会(東京都：砂防会館)が開催され、本県からは昨年度に引き続き、20市町(うち市町長12名)が参加され、大会提言が決議されました。終了後は、地元選出の国会議員や国土交通省幹部へ令和8年度予算等の確保について要望活動を行いました。



宮城県で市町長等砂防関係事業県外視察を実施

8月28日(木)～30日(土)に、市町長等砂防関係事業県外視察を宮城県(丸森町ほか)で実施し、市町長13名が参加されました。令和元年東日本台風で被災した丸森町では遊砂地工を視察したほか、保科丸森町長と活発な意見交換を行うなど、有意義な視察となりました。



令和7年度 補正予算成立

12月16日(火)、砂防関係の国土強靱化実施中期計画に基づく令和7年度補正予算が参議院本会議で可決、成立しました。本県では、国土強靱化5か年加速化対策(R2補正～R6補正)で最大を確保した令和6年度補正とほぼ同額の40.7億円(前年比0.98)が内示され、令和7年度の最終予算では、同様に最大であった令和6年度とほぼ同額の72.6億円(前年比0.99)を確保しました。今後、速やかに工事等を発注し、防災・減災、国土強靱化の推進を図ってまいります。

(予算のポイント)

- ▶ 国土強靱化実施中期計画に基づく施策の実施に必要な予算を最大限確保し、防災・減災、国土強靱化の取組を切れ目なく推進します。
- ▶ ハード対策は、「湯谷北沢砂防堰堤(藤枝市)」など89箇所で開催し、「羽鮒横林急傾斜(富士宮市)」など3箇所で開催を前倒しします。また、「内牧内宮A急傾斜(静岡市葵区)」の1箇所で開催に事業着手します。
- ▶ ソフト対策では、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の2巡目の指定に向けて、高精度な地形情報により新たに抽出した候補箇所の基礎調査を加速化します。

国土交通省関係予算

単位:千円

事業細別		R6		5か年加速化対策(R2～R6)平均		R7	
		R6当初	R6補正	当初	補正	R7当初	R7補正
補助	砂防	1,091,000	385,000	624,000	401,000	1,009,000	440,000
	地すべり	90,500	71,400	209,000	102,000	167,000	54,000
	急傾斜	92,000	172,000	191,000	97,000	147,000	226,000
交付金	砂防	761,000	869,000	779,000	876,000	754,500	866,000
	地すべり	31,000	116,000	79,000	135,000	101,000	150,000
	急傾斜	811,000	1,276,000	1,236,000	889,000	987,300	1,206,000
	ソフト	24,300	1,150,000	236,000	932,000	22,150	1,123,800
	盛土	300,000	100,000	66,000	92,000	10,000	0
計		3,200,800 (1.05)	4,139,400 (1.19)	3,420,000	3,524,000	3,197,950 (1.00) [0.94]	4,065,800 (0.98) [1.15]
		7,340,200 (1.13)		6,944,000		7,263,750 (0.99) [1.05]	

※()は前年度との比率 ※【 】は5か年加速化対策の平均との比率

油山川(静岡市葵区)で砂防堰堤完成見学会を開催 ～砂防カード第1号を配布～

3月8日(土)に、令和4年の台風第15号で発生した土石流で甚大な被害が生じた油山川(静岡市葵区)で、災害関連緊急砂防事業で整備した砂防堰堤が完成し、工事関係者と地域の皆様で完成を祝う見学会を開催しました。見学会において、いざという時には自ら早めに避難することが重要であることを伝えるための「砂防カード」を県内で初めて作成し、住民の皆様に配布しました。油山川での取組を契機に、県内で新たに完成した砂防関係施設で「砂防カード」の作成・配布を進めています。



長沢地すべり(浜松市天竜区)で地すべり学会中部支部が 現地見学会・検討会を開催 ～当支部も市町職員らが参加～

8月21日(木)～22日(金)に、長沢地すべり(浜松市天竜区)で(公社)地すべり学会中部支部の現地見学会・検討会が開催され、研究者や県担当者54名が参加しました。当支部も共催し、市町等の担当職員が現地見学会等に参加し、緊急的に実施した地すべり対策を学びました。



土砂災害警戒区域内の小中学校で出前講座と避難訓練を実施

土砂災害警戒区域に立地する小中学校は土砂災害に対する避難訓練が義務付けられていることから、対象となる134校に訓練の実施を促すとともに児童・生徒の防災意識向上を図る出前講座の希望を募り、今年度は年末までに52校で訓練と併せた出前講座を実施しました。また、さらなる出前講座の募集や、国の「防災教育の手引き」を活用する防災担当教員向けの説明会を行いました。



土砂災害防止に関する絵画・作文コンクールに94作品集まる

今年度実施した土砂災害警戒区域に立地する小中学校への出前講座等を通じて、児童・生徒に絵画・作文コンクールの募集を案内したところ、近年の応募数を大きく上回る94作品の応募がありました。作品は県及び国で審査し、3月に優秀作品を表彰予定です。



番外

砂防課ホームページを全面リニューアル

砂防関係の各種取組をわかりやすく伝えるよう、ホームページをリニューアルしました。是非ご覧ください。



※順番、枠の大小、写真の有無などについては、ニュースの大小を表しておりません。

全国治水砂防促進大会及び支部要望活動

11月13日(木)に、全国治水砂防促進大会が砂防会館で開催されました。

全国から会員(市町村長)や国・都道府県の砂防事業関係者1,600名超が参加され、当支部からは、20名(うち12名が市町長本人)が出席されました。

大会は、森山会長の挨拶、國友砂防部長の『「いのち」と「くらし」と「なりわい」を守る砂防』と題した講演に続き、佐々木国土交通副大臣から祝辞をいただきました。その後、会員代表として石飛島根県雲南市長と中村長野県小谷村長から意見発表が行われました。最後に、高知県津野町長の池田副会長から大会提言があり、満場一致で決議されました。

大会終了後、地元選出の国会議員及び国土交通省へ、令和8年度予算とともに、強靱な国土づくりの取組に不可欠な砂防関係予算の継続的な確保について要望活動を行いました。

お忙しい中、御出席いただきました会員の皆様に心より御礼申し上げます。



森山会長の挨拶



國友砂防部長の講演



静岡県支部の要望

○地域住民の生命・財産と県土を守る砂防関係事業への特段の配慮

1. 直轄砂防事業の推進

■重点箇所

- 富士山砂防事業：富士山麓の火山砂防事業と火山噴火に対する防災対策
- 安倍川砂防事業：大谷山腹工、有東木地区砂防堰堤工群 等
- 狩野川砂防事業：墓道洞砂防堰堤群、加殿地区砂防堰堤群 等

2. 直轄地すべり対策事業の推進

■重点箇所

- 由比地区地すべり対策事業：深礎杭、排水トンネル等

3. 県による土砂災害防止施設の整備と県・市町によるソフト対策の推進への支援・協力

■重点施策

- 社会生活や経済活動を支える地域の交通インフラや上下水道等のライフライン施設を保全する取組の推進
- 国土強靱化と連携して地域の円滑な避難等を確保する取組の推進
- 新たに公表された9,047箇所の土砂災害警戒区域の候補箇所の速やかな指定や地域の防災力を高める警戒避難体制の推進
- 新技術の活用等による既存施設のライフサイクルコストの縮減や老朽化対策の計画的な推進
- 砂防施設の整備や維持管理、災害対応等の砂防事業におけるDXの推進



井林辰憲衆議院議員への要望活動



源馬謙太郎衆議院議員への要望活動



渡辺周衆議院議員への要望活動



勝俣孝明衆議院議員への要望活動



鈴木岳幸衆議院議員への要望活動



平山佐知子参議院議員への要望活動



國友砂防部長への要望活動

参加市町

富士宮市、伊豆市、森町、南伊豆町、焼津市、東伊豆町、富士市、磐田市、伊豆の国市、松崎町、西伊豆町、函南町、静岡市、浜松市、三島市、沼津市、御殿場市、袋井市、湖西市、川根本町(計20市町) ※太字は首長が参加(12市町)

宮城県の砂防関係事業等を視察

8月28日(木)から30日(土)に、会員(市町長)による砂防関係事業等県外視察として宮城県(栗原市、丸森町、蔵王町ほか)を訪問しました。須藤支部長(富士宮市長)を団長に、市町長が13名、全国治水砂防協会の大野理事長、県の高梨交通基盤部長と下田・富士・浜松土木事務所長、事務局を含め22名が参加されました。

初日は、平成20年岩手・宮城内陸地震で発生した国内最大級の「荒砥沢地すべり」の対策について、林野庁東北森林管理局から説明を受けました。また、地震による山地災害の景観を防災教育や研究、観光に活用している「栗駒山麓ジオパークビジターセンター」で迫力ある映像や展示を視察したほか、須藤支部長、菊地・太田両副支部長と交通基盤部長で宮城県庁を訪問し、村井宮城県知事と面談しました。

2日目の丸森町は、令和元年東日本台風により、24時間587mmを記録する豪雨となり、土砂洪水氾濫が発生して死者11名、住宅全壊101戸等の甚大な被害となりました。国土交通省宮城南部復興事務所が実施している「五福谷川遊砂地工」を視察したほか、保科丸森町長から災害対応や復興活動の説明をいただき、意見交換を行いました。参加者からは、避難情報発令の判断や応援要請、ガレキ処理等、様々な質問が寄せられ、活発な意見交換となりました。その後、蔵王山麓で進められている火山砂防事業について、宮城県防災砂防課及び村上蔵王町長から説明を受け、現地を視察しました。

最終日の仙台市立荒浜小学校は、東日本大震災で2階にまで及ぶ津波に襲われましたが、児童・教員及び地元住民320名が屋上に避難して全員救助された小学校で、現在は震災遺構として保存され、津波被害の恐ろしさを残す校舎を視察しました。

御出席いただきました会員の皆様に心より御礼申し上げますとともに、来年度も多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。

日程

8月28日(木)

- ・栗駒山麓ジオパークビジターセンターの視察(栗原市)
- ・荒砥沢地すべり対策事業の視察(栗原市)
- ・村井宮城県知事へ表敬訪問(宮城県庁) ※支部長、副支部長等

8月29日(金)

- ・五福谷川遊砂地工の視察(丸森町)
- ・保科丸森町長と土砂災害に関する意見交換(丸森町役場)
- ・蔵王火山、松川火山砂防事業の視察(蔵王町)

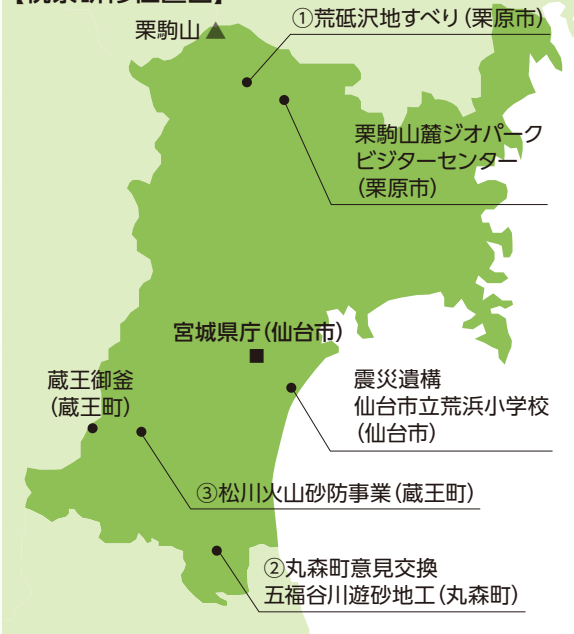
8月30日(土)

- ・震災遺構 仙台市立荒浜小学校の視察(仙台市)ほか

参加市町等

富士宮市、伊豆市、森町、南伊豆町、川根本町、東伊豆町、小山町、沼津市、島田市、牧之原市、松崎町、西伊豆町、函南町(計13市町長) 全国治水砂防協会 大野理事長 交通基盤部長、下田・富士・浜松土木事務所長、砂防課

【視察研修位置図】



①荒砥沢地すべり(栗原市)



②丸森町長との意見交換(丸森町)



③松川火山砂防事業(蔵王町)

令和7年の土砂災害の発生状況

令和7年の県内における土砂災害は、9月5日の台風第15号を中心に土石流6件、がけ崩れ22件の計28件が発生し、住宅半壊3戸、一部損壊5戸の被害がありました。本年は台風の襲来が少なく、直近の10年間の年間発生件数としては、平成28年の18件に次いで2番目に少ない件数となりました。

このうち、砂防堰堤や擁壁の整備により崩壊した土砂や流木等をくい止め、被害を軽減した効果事例が令和6年の18件に続き7件あり、2年連続で「土砂災害による死者ゼロ」を達成しました。

災害の規模や被害状況、緊急度に応じて国の補助事業で対応するものが1件、県単事業で対応するものが8件、残りは治山など他機関、または市町等が対応し、早期の復旧を目指しています。

令和7年 土砂災害の発生状況(国交省所管)

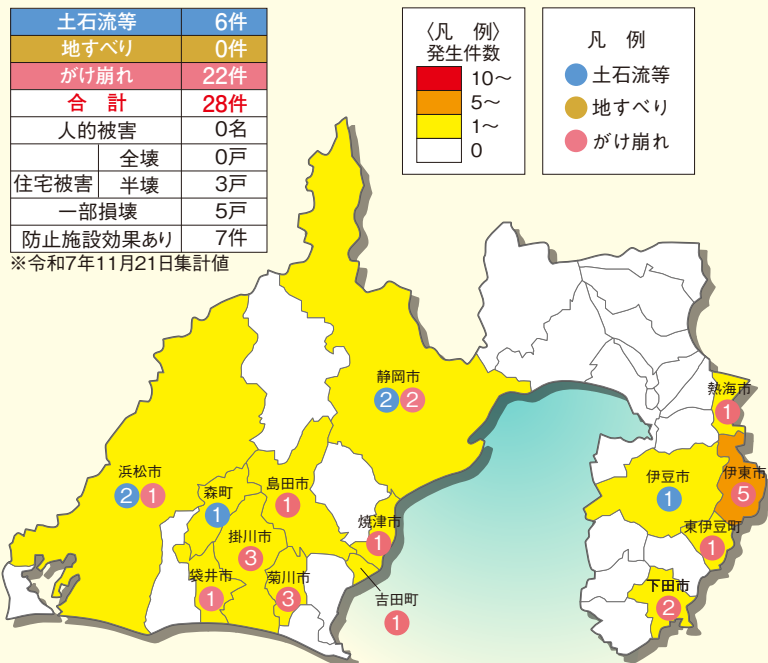
種 別	令和7年							
発生日	6月15日	6月30日	8月13日	8月16日	8月17日	9月5日	11月17日	計
原 因	降雨	降雨	降雨	降雨	降雨	台風第15号	—	
土石流等	2	0	0	2	1	1	0	6
地すべり	0	0	0	0	0	0	0	0
がけ崩れ	0	1	1	0	0	19	1	22
計	2	1	1	2	1	20	1	28
施設効果	0	0	0	0	1	5	0	7

土砂災害発生位置図

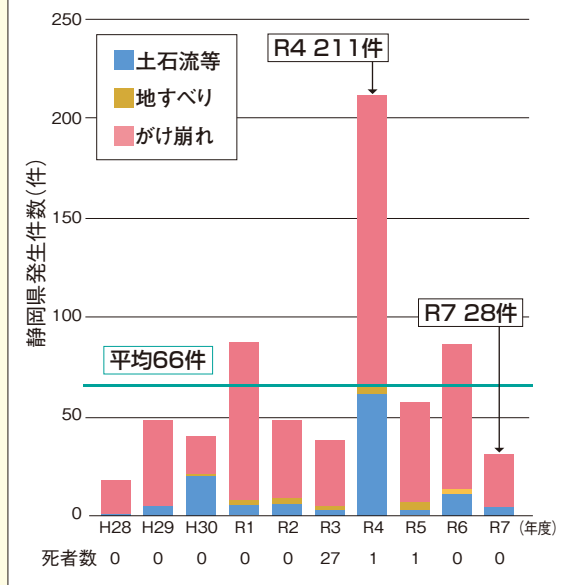
※数字は発生件数

土石流等	6件
地すべり	0件
がけ崩れ	22件
合 計	28件
人的被害	0名
住宅被害	全壊 0戸
	半壊 3戸
	一部損壊 5戸
防止施設効果あり	7件

※令和7年11月21日集計値



静岡県内の近年(10年間)の土砂災害発生状況



土砂災害の発生状況写真



がけ崩れ 伊東市川奈



土石流 伊豆市八木沢

令和7年に発生した土砂災害に対する土砂災害防止施設の施設効果

令和7年に発生した28箇所の土砂災害のうち、約25%にあたる7箇所において、県が国土強靱化の関連予算等で整備した砂防堰堤や擁壁の整備により崩壊した土砂や流木等をくい止め、人家や下流域への被害を防止する施設効果を発揮し、人的被害を防ぎました。

No	現象	月 日	場 所	指定地名称	土砂捕捉量	減災効果
1	土石流等	6月13日豪雨	静岡市清水区小島町	曾毛沢	約1,000㎡	人家121戸、国道ほか
2	土石流等	8月17日豪雨	森町薄場	井戸沢・薄場中沢	約140㎡	人家1戸、町道ほか
3	がけ崩れ	9月5日 台風第15号	伊東市新井	川西	約20㎡	人家2戸
4	がけ崩れ		焼津市吉津	吉津中ノ谷	約10㎡	人家1戸
5	がけ崩れ		下田市西本郷	西本郷一丁目南No.2	約100㎡	人家2戸
6	がけ崩れ		下田市西本郷	西本郷三丁目C	約40㎡	人家4戸
7	地すべり		島田市伊太	伊太	—	人家2戸

令和7年の代表的な効果事例

【土石流】曾毛沢(静岡市清水区小島町)

静岡市清水区の「曾毛沢」では、令和7年6月14日から的大雨により土石流が発生しましたが、県が整備した砂防堰堤が土砂や流木等をくい止め、人家121戸と国道52号(緊急輸送路)への被害を軽減しました。

土石流の発生が出水期のはじまった6月であったため、7月には緊急的に除石を行い、次の出水に備えました。

土石流発生前



R7.6豪雨で土石流を捕捉



R7.7緊急除石完了



【がけ崩れ】西本郷三丁目C(下田市西本郷)

下田市の「西本郷三丁目C」では、令和7年9月5日からの台風第15号によりがけ崩れが発生しましたが、県が整備した急傾斜地崩壊防止施設(擁壁)により崩壊した土砂をくい止め、人家4戸への被害を防ぎました。

この箇所は、令和6年6月の豪雨でもがけ崩れが発生し、施設効果を発揮しました。その後、擁壁に堆積した崩壊土砂を速やかに取り除き、機能を回復させたため、今回のがけ崩れにおいても同様に人家への被害を防ぐことができました。

R6.6月豪雨で土砂を捕捉



急傾斜地崩壊防止施設(落石防護柵及び擁壁)

除石により機能回復



R7.9台風第15号でも土砂を捕捉



(公社)日本地すべり学会中部支部が長沢地すべり(浜松市)等で現地見学会及び検討会を開催

～ 全国治水砂防協会静岡県支部が共催し 市町等砂防担当職員も研修に参加 ～

8月21日(木)から22日(金)に、「長沢地すべり(浜松市天竜区)」で(公社)日本地すべり学会中部支部の現地見学会及び検討会が開催され、大学や民間の研究者、県の担当者等54名が参加しました。

また、全国治水砂防協会静岡県支部も共催し、市町等砂防担当職員研修として、21名の県・市町職員が参加しました。

現地見学会では、令和5年台風第2号で発生した「長沢地すべり(浜松市天竜区)」と令和6年台風第10号で被災した「渡ヶ島禿石急傾斜(浜松市天竜区)」の災害復旧工事の現場を見学しました。「長沢地すべり」では、県が災害関連緊急事業で地すべり対策を行うとともに、浜松市が道路の災害復旧事業を行っており、県と市が連携した緊急の対応について学びました。

また、検討会では、「長沢地すべり」の発災から復旧工事に関わった県の担当者や設計コンサルタント、建設会社から、応急対策における様々な調整や地すべり変状を踏まえた対策工の立案、工事現場での創意工夫について説明が行われました。

参加者からは、地すべり防止区域の範囲や復旧工法の選定等について、多数質問があり、活発な意見交換が行われ、災害時の初動対応から復旧工事までの流れを学ぶ良い機会となりました。



長沢地すべり



渡ヶ島禿石急傾斜

市町等砂防担当職員研修を開催

～ 様々な急傾斜地対策を学ぶ ～

11月25日(火)に、市町等砂防担当職員研修を静岡市内で開催し、市町と県土木事務所等の担当職員36名が参加されました。

はじめに研修会を行い、県から急傾斜地崩壊対策事業の概要や、「まちづくり」と連携した事業展開が重要となることから立地適正化計画について説明を行いました。さらに、地域から要望の多い法指定の対象外となる人家5戸未満の急傾斜地崩壊対策をテーマに、「がけ地近接等危険住宅移転事業」や「住宅・建築物安全ストック形成事業」による移転や個人住宅の補強への助成制度のほか、静岡市や袋井市から市町独自の取組を紹介いただき、参加者らで意見交換を行いました。

研修会に続いて、静岡市内の「宮前町a」急傾斜地崩壊対策事業と「油山川」災害関連緊急砂防事業の現場を見学し、実際に行われている対策事業の現場を視察しました。

参加者からは、「住民へ説明する際に必要な知識が身についた。」「他市の先進的な取組を知り今後の参考になった。」等の御意見をいただき、大変有意義な研修となりました。

参加市町等

静岡市、浜松市、沼津市、熱海市、
富士宮市、島田市、富士市、焼津市、
藤枝市、御殿場市、袋井市、湖西市、
伊豆市、御前崎市、伊豆の国市、
松崎町、西伊豆町、清水町、長泉町、
小山町、(計20市町)
沼津・静岡・袋井土木事務所等
(合計36名)



研修会の様子



現場見学(宮前町a)

富士市

静岡県東部に位置する富士市は、世界遺産・富士山の雄姿を間近で望む、自然と歴史に恵まれた街です。富士山を源とする潤井川や沼川が流れ、市民の生活や産業に豊かな水資源をもたらしています。しかし、急峻な地形と雨量の多さから、洪水や土砂災害のリスクが高く、当市では長年にわたり河川改修やハザードマップの作成などに力を注ぎ、安全安心なまちづくりを進めています。

観光面では、田子の浦港からの富士山絶景、岩本山公園での桜や梅、中央公園に咲き誇る約1800株の薔薇など、四季折々の美しさが楽しめます。富士山こどもの国は、広大な自然の中でアウトドア体験ができ、家族連れにも人気です。富士市かぐや姫ミュージアムでは、地域の伝説や歴史に触れること



中央公園バラ園

ができ、市民のみならず観光客にも親しまれています。

スポーツイベントも充実しており、特に年末に開催される「富士山女子駅伝」は全国屈指の大学女子駅伝競技大会として知られ、全国から注目が集まります。選手たちが富士宮市の浅間大社から当市までを駆け抜け、沿道には多くの市民や観光客が応援に訪れます。また、令和8年には「富士山サイクルードレース2026」や「パラ水泳ワールドシリーズ富士・静岡2026」など、全国規模のスポーツイベントも予定されており、富士市はスポーツと交流の場としても発展を続けています。

安全と自然、そしてスポーツと交流の拠点となる富士市。多彩な魅力あふれるイベントや観光スポットを通じて、地域の活力をぜひ感じてみてください。



富士山女子駅伝

歴史探訪

大沢崩れ(おおさわくずれ)

富士山の西斜面に位置する「大沢崩れ」は、山頂から標高2,200m付近まで延長2.1kmにわたり、最大幅500m、最大深さ150m、崩壊面積1km²、崩壊土砂量7,500万m³といわれ、国内最大級の崩壊地です。

大沢崩れが起きた年代は明らかではありませんが、国土交通省富士砂防事務所が堆積している古い土石流に含まれていた木片を年代測定したところ、約1,000年前のものが含まれていました。

大沢崩れでの地質は、やわらかいスコリア(火山灰などの噴出物)と硬い溶岩が層状に重なっており、風雨や気温の変化でスコリアが流れ出し、次に溶岩が崩壊するという現象が繰り返されています。

近年では、令和3年3月に昭和47年に発生した土石流を上回る、過去最大規模の土石流(約42万m³)が発生するなど、毎年のように土砂が流出(年平均15万m³)しています。

富士山では大沢崩れのほか、南西斜面の溪流においても過去より幾度も土砂災害を引き起こしていたことから、昭和43年に建設省沼津工事事務所による直轄砂防調査が行われ、翌44年に富士宮砂防出張所が設置され、大沢崩れで直轄砂防事業が始まりました。

昭和45年に建設省富士砂防工事事務所が設置され、大沢崩れの源頭部対策や扇状地対策が本格的に進められるとともに、昭和58年度からは、弓沢川などの南西野溪対策も着手されました。

平成30年度には、富士山全周を対象とした噴火対応の火山砂防事業に着手され、富士山麓の総合的な土砂流出対策が国の直轄事業で行われています。



大沢崩れと大沢扇状地(国土交通省富士砂防事務所撮影)

東海地区土砂災害防止法担当者会議を開催

9月18日(木)に、東海地区土砂災害防止法担当者会議を静岡市内で開催しました。東海地区の担当者が出席し、高精度な地形情報を活用した2巡目の基礎調査や、来年度から運用される新たな防災気象情報への対応など、土砂災害警戒区域の円滑な指定や警戒避難体制の整備に関する各県の取組状況を共有するとともに、課題について意見交換を行いました。

本県では、今年度から令和6年3月に公表した土砂災害警戒区域等の候補箇所9,047箇所の基礎調査を本格的に進めており、会議で得られた知見や情報等を参考に指定に向けた取組を加速していきます。



会議の様子

由比地区地すべりで親子見学会が開催される

7月20日(日)に、国土交通省富士砂防事務所、県、静岡市の共催で「令和7年度子ども見学会」を由比地区地すべり(静岡市清水区)で開催し、6組14名の親子に参加いただきました。

はじめに県の由比地すべり管理センターにおいて、砂防課職員が由比地区の模型や対策工の実物展示を用いて地すべり災害の歴史と対策工事等を説明しました。次に、国の工事現場に移動し、普段入ることができない排水トンネルや深礎杭等の大規模な工事現場の見学や、バックホウ操作体験等を実施しました。

参加者からは、「全て面白かったです。またあったら行きたいです。」「大変楽しく勉強することができました。大変なお仕事をされて、地域の安全を守って頂き感謝です。」等の声が聞かれました。



地すべり管理センターでの説明



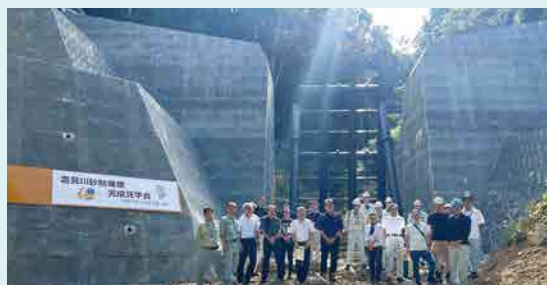
排水トンネル内部の見学

「雲見川右支川(松崎町)」砂防堰堤の完成見学会を開催

10月2日(木)に、「雲見川右支川」の完成見学会を松崎町雲見地区で開催しました。雲見川は、令和4年8月の台風第8号により大規模な土石流が発生し、下流の人家や温泉旅館等に甚大な被害が生じたことから、県は再度災害を防止するため、災害関連緊急砂防事業により「雲見川右支川」と「上の沢川」で砂防堰堤の整備を進め、9月末に砂防堰堤が完成しました。

完成見学会は、下田土木事務所が主催し、深澤松崎町長をはじめ地元住民、工事関係者など約30名が参加しました。

当日は、県から砂防堰堤の機能や効果を説明するとともに、早期避難の重要性を伝える「砂防カード」を配布しました。また、町長や地元区長から堰堤の完成に対するねぎらいや感謝の言葉をいただき、砂防堰堤を間近で見学しながら参加した皆様で完成を祝いました。



見学会 集合写真(雲見川右支川)



松崎町長の挨拶

砂防事業促進議員連盟が静岡県内の砂防事業を現地視察

8月25日(月)に、国会議員で構成される「砂防事業促進議員連盟」が国土交通省富士砂防事務所管内の富士山直轄砂防事業及び由比地区直轄地すべり対策事業を視察されました。

視察には、本県選出の井林辰憲議員、上川陽子議員、細野豪志議員、深沢陽一議員のほか12名の国会議員が参加し、國友砂防部長や光永富士砂防事務所長らから、工事の進捗や事業の効果について説明が行われるとともに、鈴木静岡県知事や須藤富士宮市長も同席し、国が進めている対策の一層の推進を呼びかけました。



由比さった峠にて(静岡市清水区):写真中央が鈴木静岡県知事

新潟県議会の視察団が県内の砂防関係事業現場を視察

10月23日(木)及び24日(金)に、新潟県議会砂防事業促進研究会が本県を訪れ、油山川災害関連緊急砂防事業(静岡市葵区)をはじめ、国土交通省富士砂防事務所の由比直轄地すべり対策事業(静岡市清水区)や富士山大沢扇状地対策(富士宮市)等を視察されました。

令和4年に甚大な土石流被害を受けた油山川では、短期間で砂防堰堤を施工するための地元調整や工事現場での工夫等を説明しました。安倍中河内川のランドスペース創出事業では、ウイスキー工場の立地で賑わいが生まれストック効果を発揮したことを紹介しました。

このほか、国土交通省富士砂防事務所による大沢扇状地対策や由比地すべり対策で進められている深礎杭工の現場を視察するとともに、県の由比地すべり管理センターの展示施設案内を行い、参加者は大変熱心に視察されました。



油山川災害関連緊急砂防事業の視察



由比地区直轄地すべり対策事業の視察

東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が開催される

10月21日(火)に、東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が愛知県犬山市内で開催され、本県から菊地伊豆市長と砂防課長が出席しました。

犬山市の橋爪山沢で施工されている砂防堰堤の視察に続き、会議では国土交通省砂防部の山越地震・火山砂防室長から今年の土砂災害発生状況や施設効果事例、令和8年度概算要求の概要等の話題提供と、(一社)全国治水砂防協会の城ヶ崎技術顧問から今年度の協会活動報告がありました。その後、各支部の活動報告が行われ、熱心な意見が交わされ、有意義な会議となりました。



橋爪山沢砂防堰堤(愛知県犬山市)

募集・お知らせコーナー

土砂災害防止に関する絵画・作文の応募への御礼

6月1日～9月15日の間、県内の小中学生の皆さんに土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくため、絵画と作文を募集したところ、多数の応募をいただきました。誠にありがとうございました。なお、国と県による入選発表及び表彰式は令和8年3月を予定しています。

【応募状況】

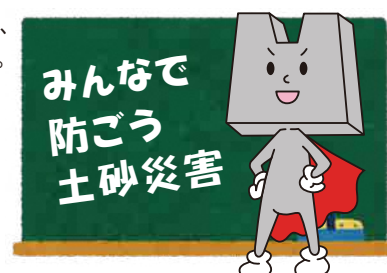


部 門	小学生	中学生	計
絵 画	59	4	63
作 文	17	14	31
合 計	76	18	94

砂防及び地すべり防止講習会のお知らせ

砂防および地すべり対策業務を担当する職員の実務並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため、「砂防及び地すべり防止講習会」が開催されます。

日 時：令和8年2月17日(火)・18日(水)
 会 場：砂防会館 別館 シェーンバッハ・サボー利根会議室
 参 加 費：4,000円
 主 催：一般社団法人 全国治水砂防協会 TEL (03)3261-8386
 問合せ先：全国治水砂防協会静岡県支部 TEL (054)221-3042



令和8年 砂防関係の 主な行事



●支部活動予定

5月21日(木) 静岡県支部役員会および第81回通常総会(静岡市内)
 6月1日(月)～7日(日) かけ崩れ防災週間(県内各市町)
 1日(月)～30日(火) 土砂災害防止月間(県内各市町)
 1日(月)～30日(火) 急傾斜地パトロール(県内各市町)
 6月上旬 土砂災害・全国防災訓練(県内各市町)
 みんなで防ごう土砂災害(青葉シンボルロード)
 8月27日(木)～29日(土) 市町長等砂防関係事業県外視察(三重県・和歌山県)
 11月12日(木) 砂防関係事業促進要望(議員会館等)
 11月予定 市町等砂防担当職員現場研修

●協会本部活動予定

2月17日(火)・18日(水) 第66回砂防および地すべり防止講習会(砂防会館)
 5月28日(木) 第90回通常総会(砂防会館)
 10月26日(月)・27日(火) 砂防現地視察と討論会(場所：未定)
 11月12日(木) 全国治水砂防促進大会(砂防会館)

【表紙写真】

雪晴れの朝

〈撮影地：越前岳〉

写真提供：富士市第17回富士山百景写真コンテスト

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様の御協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。



編集・後・記

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

旧年中は多大なる御支援をいただき、誠にありがとうございました。

9月に発生した台風第15号では、本県に甚大な被害をもたらしました。特に、牧之原市から吉田町にかけて発生した国内最大級の竜巻では、県民の皆様の生活を脅かす事態が多数発生しました。被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

幸福度日本一の静岡県に向けて、本年も皆様のお役に立つ情報を発信できますよう努めてまいりますので、何卒よろしく願います。

本年も皆様に御多幸と御健勝が絶え間なく訪れますよう、心より祈念申し上げます。

全国治水砂防協会静岡県支部 吉澤 舞里子

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <http://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kasensabo/index.html>

